

# CentreCOM® 9812T/9816GB リリースノート

この度は、CentreCOM 9812T/9816GB をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.4.4 pl06 (2.4.4-06)

## 2 未サポート機能

以下の項目は付属のコマンドリファレンスに記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- ポリシーベース QoS の「優先制御」  
CREATE QOS FLOWGROUP コマンドの PRIORITY パラメーター  
CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの PRIORITY パラメーター  
DISABLE QOS PRIORITYQUEUEING コマンド  
ENABLE QOS PRIORITYQUEUEING コマンド  
SHOW QOS PRIORITYQUEUEING コマンド
- ADD/SET DVMRP INTERFACE コマンドの TTLTHRESHOLD パラメーター

## 3 本バージョンで追加・仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.4.4 pl05** から **2.4.4 pl06** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加、または仕様変更されました。

### 3.1 クラシファイアの MACTYPE パラメーター

CREATE CLASSIFIER、SET CLASSIFIER、SHOW CLASSIFIER コマンドの MACTYPE パラメーターに指定できる値が次のように変更されました。

**変更前** (～ 2.4.4 pl05) : MACTYPE={L2UCAST;L2BMCAS;ANY}

**変更後** (2.4.4 pl06) : MACTYPE={L2UCAST;L2MCAST;L2BCAST;ANY}

**2.4.4 pl05** までは、L2BMCAS がユニキャスト以外のすべて（マルチキャストとブロードキャスト）を表していましたが、**2.4.4 pl06** では L2MCAST がマルチキャストを、L2BCAST がブロードキャストをそれぞれ別個に表すようになりました。

この仕様変更により、**2.4.4 pl06** では「MACTYPE=L2BMCAS」という指定がエラーになります。**2.4.4 pl05** までのバージョンで「MACTYPE=L2BMCAS」の条件を持つクラシファイアを使っていた場合は、該当するクラシファイアを2つに分け、それぞれ「MACTYPE=L2BCAST」、「MACTYPE=L2MCAST」という条件を指定してください。

### 3.2 ファイアウォール (AT-FL-10) とハードウェアパケットフィルターの併用

ファイアウォール (AT-FL-10) とハードウェアパケットフィルターの併用をサポートしました。適用はハードウェアパケットフィルター、ファイアウォールの順となります。ただし、ファイアウォール機能を有効にした場合、ファイアウォールポリシーに追加されたインターフェース (VLAN) 経由の通信 (ルーティング) はソフトウェア処理となりますのでご注意ください。

## 4 本バージョンで修正された項目

---

ソフトウェアバージョン 2.4.4 pl05 から 2.4.4 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 インターフェース拡張グループ MIB の ifXEntry の一部が正しくカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.2 ブリッジ MIB の dot1dStpPriority の値が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.3 ブリッジ MIB の dot1dStpPortForwardTransitions が正しくカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.4 ブリッジ MIB の dot1dStpTopChanges が正しくカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.5 内部温度がしきい値を超えても Temperature トラップが送信されませんでした。これを修正しました。
- 4.6 SNMP トラップの agent-addr フィールドに始点 IP アドレスと異なるアドレスをセットしてしまいましたが、これを修正しました。
- 4.7 NTP パケットの送信間隔が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.8 PURGE NTP コマンドの実行後も NTP の設定が一部残っていましたが、これを修正しました (「7.6 PURGE NTP コマンドについて」もご参照ください)。
- 4.9 DISABLE TELNET SERVER コマンドを実行し、次に ENABLE TELNET SERVER コマンドを実行すると、本製品がレポートしていましたが、これを修正しました。
- 4.10 レイヤー 2 スイッチング動作において、マルチキャストパケットが同一 VLAN 内にフラディングされませんでした。これを修正しました。
- 4.11 トランクグループに (制限数 16 を超える) 17 までポートを追加できていましたが、これを修正しました。
- 4.12 DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定が CREATE CONFIG コマンドで作成する設定ファイルに反映されませんでした。これを修正しました。

- 4.13 CREATE SWITCH TRUNK、SET SWITCH TRUNK コマンドの SPEED パラメーターが機能しませんでした、これを修正しました。
- 4.14 SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターでポートセキュリティの設定を変更すると、スタティックな FDB エントリーがすべて削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.15 スパニングツリープロトコルにおいて、本製品が送信する BPDU のパケット長が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.16 DELETE SWITCH FILTER コマンドにおいて、複数エントリー指定時の動作が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.17 ポリシーベース QoS において、サポート対象外の SET QOS、SHOW QOS コマンドが実行可能でしたが、これらを実行できないようにしました。
- 4.18 RESET IP COUNTER=ALL を実行しても IP ARP カウンターがクリアされませんでした、これを修正しました。
- 4.19 IP インターフェースのリンクアップ直後、RIP パケットがすぐに送信されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.20 SET TRACE コマンド、TRACE コマンドの PORT パラメーター（終点 UDP ポートを指定するパラメーター）が正しく機能しませんでした、これを修正しました。
- 4.21 本製品自身が IP パケットを送信するとき、宛先が ARP キャッシュに登録されていると、出力ポートがタグ付きポートにもかかわらず、タグなしパケットとして送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.22 DVMRP において、DELETE DVMRP INTERFACE コマンドで DVMRP インターフェースを削除すると、ADD DVMRP INTERFACE コマンドで同じインターフェースを再度追加しても、該当するインターフェースの経路がホールドダウン状態のままとなっていました、これを修正しました。
- 4.23 本製品の DVMRP インターフェース配下にグループメンバー（ホスト）と下流側 DVMRP ルーターが存在している構成において、グループメンバーから IGMP Leave メッセージを受信すると、下流側ルーターから DVMRP Prune メッセージを受信している状態であっても、下流側ルーターにマルチキャストパケットを転送し続けていましたが、これを修正しました。
- 4.24 DISABLE IP IGMP コマンドで IGMP を無効にしても IGMP Query が送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.25 IGMP をいったん無効にし、再度有効にした場合、グループ登録がすぐに行われなかったことがありましたが、これを修正しました。

- 4.26 IGMP 使用中にシステム時刻が変更されると、IGMP グループエントリーの Refresh time が不正な値になることがありましたが、これを修正しました。
- 4.27 ファイアウォール (AT-FL-10) 使用時、ルーティングされた IP パケットの TTL が減算されませんでした、これを修正しました。
- 4.28 ファイアウォール (AT-FL-10) 経由で Kerberos を使用すると、認証に失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 4.29 ファイアウォール (AT-FL-10) 使用時、PUBLIC インターフェース配下の端末から別の PUBLIC インターフェース宛てに Telnet を実行した場合、パケットを破棄したことを示す Deny イベントがログに記録されませんでした、これを修正しました。
- 4.30 すべてのポートがリンクダウンしている状態で VRRP を有効化すると、SHOW IP INTERFACE、SHOW IP ROUTE コマンドで「Interface」欄に表示されるはずの「#」(リンクダウンを示す記号) が表示されなくなりましたが、これを修正しました。
- 4.31 1 つの IP インターフェースに 2 つのバーチャルルーター (VR) を作成した場合、該当する IP インターフェース宛での Ping に応答しませんでした、これを修正しました。
- 4.32 DHCP サーバー機能において、リレーエージェント経由で DHCP メッセージを受信すると、クライアントに誤ったサブネットの IP アドレスを割り当ててしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.33 DHCP サーバー機能において、IP アドレスのリース期間が年をまたがった場合、SHOW DHCP CLIENT コマンドで Expiry (リース終了日時) が正しく表示されませんでした、これを修正しました (「? ? SHOW DHCP CLIENT コマンドの表示について」もご参照ください)。
- 4.34 DHCP サーバー機能の設定において、DHCP ポリシーの継承機能 (CREATE DHCP POLICY コマンドの INHERIT パラメーター) を利用している場合、他のポリシー (子ポリシー) が依存している状態であってもベースポリシー (親ポリシー) を削除できていましたが、これをできないようにしました。

## 5 本バージョンでの制限事項

---

ソフトウェアバージョン 2.4.4 pl06 には、以下の制限事項があります。

### 5.1 DHCP ポリシーの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「DHCP ポリシー」

DHCP ポリシーを複数設定して保存すると、ポリシー名が昇順 (英字はアルファベット順、数字は小さい順) にソートされて設定スクリプトファイルに書き込まれます。CREATE DHCP POLICY コマンドの INHERIT パラメーターで既存のポリシーを継承する設定を行う場合には、次の例のように、新規に作成するポリシー名が昇順で後になるようにしてください。

```
CREATE DHCP POLICY=BBB LEASETIME=7200 INHERIT=AAA
```

---

## 5.2 クラシファイアの設定について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

- CREATE CLASSIFIER コマンドで IPXSSOCKET と IPXD SOCKET パラメーターを指定しても該当のパケットが正しく分類されません。
- CREATE CLASSIFIER コマンドで IPXDADDR/IPXSSOCKET/IPXD SOCKET パラメーターを指定して IPX の設定を行った後、SET CLASSIFIER コマンドで MACTYPE パラメーターに L2UCAST を指定して設定を変更しても、該当のパケットが正しく分類されません。このような設定変更を行った場合は、設定を保存し、本製品を再起動してください。

---

## 5.3 DHCP リレー (DHCP メッセージ最大転送回数) の設定について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値 (最大転送回数) より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

---

## 5.4 DVMRP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品を含む 3 台のルーターの DVMRP インターフェースが同一の VLAN に所属している構成で、本製品の配下にグループメンバーが存在していない場合、上流側ルーターからのマルチキャストパケットを下流側ルーターに転送せず、上流側ルーターに Prune メッセージを送信するため、下流側ルーターがグループに参加することができません。

---

## 5.5 ファイアウォール (AT-FL-10) /ICMP メッセージの転送について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」

ENABLE FIREWALL POLICY コマンドの ICMP\_FORWARDING パラメーターに ALL を指定し、ICMP メッセージを転送するよう設定した場合、本製品の PUBLIC インターフェースから送信される Destination Unreachable, Time Exceeded などのメッセージの送信が遅れることがあります。

---

## 5.6 マルチキャストパケットのフラッドについて

マルチキャスト MAC アドレス 01-80-C2-00-00-10 ~ 01-80-C2-00-00-3F 宛てのパケットは、同一 VLAN 内にフラッドされません。そのため、OSI Route level 1 IS hello (01-80-C2-00-00-14) などのパケットが転送されずに破棄されてしまいます。

---

## 6 旧版リリースノートの誤記訂正

旧版リリースノート「CentreCOM 9812T/9816GB Version 2.4.4 pl05 リリースノート (Rev.C)」には、記載内容に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- 6.1 「4.2 クラシファイアの設定について (p.2)」の第 3 項に下記の制限が記載されていますが、これは制限ではなく正常な動作です。

**誤**：CREATE CLASSIFIER コマンドで SVLAN パラメーターを指定し、ハードウェアパケットフィルターのフィルターエントリーで該当のクラシファイアを使用した場合、指定した VLAN 宛のパケットが破棄されます。

**正**：SVLAN からのパケットを破棄するフィルターエントリーを作成した場合、SVLAN 宛での通信においても、SVLAN からの戻りパケット（ARP reply など含む）が破棄されるため、結果的に SVLAN との通信ができなくなります。これは正常な動作です。

- 6.2 「4.5 OSPF のルート表示について (p.3)」に下記の制限が記載されていますが、これは誤りです。バージョン 2.4.4 pl03、2.4.4 pl05、2.4.4 pl06 のいずれにおいても、このような制限はありません。

**誤**：SHOW OSPF ROUTE コマンドで経路情報が正しく表示されません。経路の確認は、SHOW OSPF LSA コマンドで行ってください。

**正**：SHOW OSPF ROUTE コマンドに制限はありません。

- 6.3 「4.8 MIB カウンターリセットについて (p.3)」に下記の制限が記載されていますが、これは制限ではなく正常な動作です。RESET INTERFACE COUNTER コマンドでは、MIB カウンターはクリアされません（「7.8 RESET INTERFACE COUNTER コマンドについて」もご参照ください）。

**誤**：指定したインターフェースの MIB カウンターをリセットする RESET INTERFACE COUNTER コマンドが正しく動作しません。

**正**：RESET INTERFACE COUNTER は、SHOW INTERFACE コマンドの COUNTER オプションで表示される統計値をリセットするコマンドです。この統計値は MIB カウンターと関連していますが、MIB カウンターそのものとは別に管理されています。そのため、RESET INTERFACE COUNTER コマンドを実行しても、MIB カウンターはクリアされません。

## 7 コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

付属の CD-ROM に収録されている「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.4 (Rev.A)」の補足事項です。

### 7.1 スタティックルートの設定について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (スタティック)」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターの IP アドレスは、INTERFACE パラメーターで指定する IP (VLAN) インターフェースと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属する IP アドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

### 7.2 クラシファイア (MACTYPE パラメーター) について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

CREATE (SET) CLASSIFIER コマンドの説明で、MACTYPE パラメーターの選択肢として「L2UNICAST (ユニキャスト)」が記載されていますが、正しくは「L2UCAST (ユニキャスト)」ですので、訂正してお詫びいたします。

---

### 7.3 VLAN 登録数について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

CREATE VLAN の「備考・注意事項」に、「VLAN は 4090 個 (VLAN default を含む) まで作成できる」とありますが、正しくは「2048 個 (VLAN default を含む)」ですので、訂正してお詫びいたします。なお、VID は 2 ~ 4090 の範囲で設定可能です。

---

### 7.4 ポート帯域制限 (EGRESSLIMIT パラメーター) について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT パラメーターに 0 を指定した場合の説明として「帯域ゼロ (パケットを送信しない) の意味」とありますが、正しくは、NONE と同じく「帯域を制限しない」の意味になりますので、訂正してお詫びいたします。

---

### 7.5 ファイアウォール (AT-FL-10) / インターフェース NAT ルールの削除

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォール NAT」

ADD FIREWALL POLICY NAT コマンドの NAT=STANDARD で追加したルールを DELETE FIREWALL POLICY コマンドで削除する場合は、IP パラメーターの指定が必要です。ルールを追加するときに IP パラメーターを省略した場合は、削除するときに IP=0.0.0.0 を指定してください。

---

### 7.6 PURGE NTP コマンドについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

PURGE NTP コマンドの説明に「コマンド実行前に NTP モジュールが有効だった場合は、すべての設定削除後再度有効にする」とありますが、同コマンドを実行するとすべての NTP 設定が削除されるため、NTP モジュールは無効状態となります。訂正してお詫びいたします。

---

### 7.7 SHOW DHCP CLIENT コマンドの表示について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「概要」

SHOW DHCP CLIENT コマンドの表示項目「Expiry」の説明に「残りリース時間」とありますが、正しくは「リース終了日時」です。訂正してお詫びいたします。

---

### 7.8 RESET INTERFACE COUNTER コマンドについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

コマンドリファレンスには記載されていませんが、指定したインターフェースの統計カウンターをクリアするコマンドとして、次のコマンドが用意されています。

**RESET INTERFACE [= {ifindex|interface}] COUNTER**


INTERFACE には、インターフェースのインデックス番号 (ifIndex) がインターフェース名を指定します。インデックス番号とインターフェース名は、SHOW INTERFACE コマンドの「ifIndex」および「Interface」欄で確認できます。省略時はすべてのインターフェースが対象となります。

なお、本コマンドでクリアされるのは、SHOW INTERFACE コマンドの COUNTER オプションで表示される統計値です。この統計値は MIB カウンターと関連していますが、MIB カウン

ターそのものとは別に管理されています。そのため、RESET INTERFACE COUNTER コマンドを実行しても、MIB カウンターはクリアされません。

---

## 7.9 ポートトランキングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ポートトランキングと下記の機能は併用できません（トランクポートでは下記の機能を使用できません）。

- スパニングツリー
- IGMP/IGMP snooping

---

## 7.10 DHCP の静的割り当て設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP レンジ内の IP アドレスを特定の MAC アドレスに静的割り当てする場合、以下の点にご注意ください（静的割り当ての設定は ADD DHCP RANGE コマンドで行います）。

- 静的割り当ての対象となる端末（DHCP クライアント）は、DHCP レンジの所属サブネットワークでしか使用できません。本製品は、静的割り当て対象の MAC アドレスに対して、つねに静的な IP アドレスを割り当てようとするため、端末を他のサブネットワークに移動すると、（動的割り当てによる）アドレス設定が正しく行えなくなります。静的割り当てした端末を他のサブネットワークに移動するときは、DELETE DHCP RANGE コマンドで静的割り当てエントリーを削除してください。
- 同一の MAC アドレスに対して複数の静的割り当てエントリーを作成した場合、最後に作成したエントリーだけが有効となります。1 つの MAC アドレスに複数の IP アドレスを静的割り当てしないでください。